

I K G の
旅館経営再生塾

第一四回

銀行に頼るな！

資金調達第七弾

社内休眠資金の発掘

（執筆）飯島 賢二

差入保証金、家賃などの見直し・削減化、保険積立金の見直し…などがある。

一つづつ、詳細に解説するスペースはないが、ちよつとした会社なら通常の決算業務の中で検討されていることであり、改めて述べるまでもないかもしれない。

貸借対照表の資産の武を、いかに有益に資金化するか…この方法をアセットファイナンスという。本シリーズの第一〇回に「不動産の証券化」というテーマで述べたのも、この手法であった。アセットファイナンスの初歩的手法として「社内休眠資金」の発掘がある。これは社内に資金源を求める方法で、究極的には企業の資金不足対策としての資金調達の有効な、直接金融策である。

具体的方法としては、
売掛債権の圧縮、在庫の処分・圧縮、有価証券・固定資産の売却、

簡単な例で、保証金が一億円、家賃が月80万円だったある旅館直営のレストラン、裏づけ資料と今後の経営環境の客観データ、現状の世間相場を資料化し交渉、保証金3千万円、家賃三十万円に値下げさせた実例がある。七千万円の臨時収入と月額五十万円の固定費の減少は、大きな財務貢献を果たしたといつてよい。

企業の持つ経営資源をもう一度良く見直して、眠ってる資源の資金化を図っていくことが肝要である。